

ikeeco

2024
vol.47

“住む人が主役の家づくり”に、もっとファンを！

住まい手が語る100点満点のエコハウス
自然との一体感をもたらす

「空」を纏う家

まと



2024年の5月から10月にかけて、気温35℃～38℃を記録し続けた福岡市内の新築2階建てに「この暑い夏を、エアコン一台のみの稼働で快適に乗り切れました」というMさん夫妻が住む。1991年に建てた以前の家では、冬には全ての部屋の暖房器具のタイマーを掛けて寝ることが日課だった。それでも外気温よりも室内気温のほうが低く感じることもあったほど、断熱性能はほとんどない家だったと振り返る。Mさんが自宅の建て替えを検討するようになったきっかけは、息子さんがマンションの購入計画を立てたことだった。家族で一緒に展示場を回るうちに、マンションの室内の居心地の良さを感じ、家における気密や断熱性能の重要性を知る。

「そうしたら、今住んでいる家はひょっとして寒すぎたり暑すぎたりするのでは?と気になり始めたのです」。そこからいろいろと調べ現代の家の機能性が高いことを知るにつれ、当時の家にあと20年以上住み続けるのは体力的にも難しいのではないかと、との判断に至ったという。

本当に共感できる建築家との出会い

Mさん夫妻は、家づくりを始めた際に住宅展示場やモデルハウスを一通り見学し、高気密高断熱を唱えるハウスメーカーで契約しかけていた。しかし、そこでは住宅の基本性能や光熱費を重視した機能的な話で夫は納得していたが、デザイン性については望めず希望していた無垢の床材については断られるなど、妻にはなかなか決断に踏み切れない要素があった。

そんなある日、家づくりの情報源として登録していたYouTubeチャンネルに、今回の設計者である空設計工房の江藤真理子さんがゲストとして登場する。その番組でパッシブハウスという考え方や基準があることを知り、江藤さんの分かりやすい解説がとても腑に落ちたことから、ホームページより直接連絡を取ることとなる。江藤さんとの初めての面談ではパッシブハウスの話に加え、住宅が人の健康や周辺環境にとって重要な要素である、というドイツ発祥のバウビオロギー（建築生物学）の話にまで及んだ。「住宅は第3の皮膚である」という考え方にに基づき、心地よい室内環境をつくる建材の重要性についてなどの説明も受けることに。当初はリノベーションでの住宅計画も検討していたMさんだったが、「バウビオロギーの要素も取り入れたパッシブハウス基準での新築」という明確な目標を持つことができたという。しかし、パッシブハウス認定の取得を目標としたMさん

の新築計画は、順風満帆に進んだわけではない。シミュレーションを進めていく中で土地や予算の条件が合わず、最終的にはパッシブハウス認定自体は取得を断念せざるを得なかったからだ。一方、設計者である江藤さんも、Mさんの要望をなるべく叶えるため思い悩んだ。「このような手段や建材を選ばなかったら、今回も認定パッシブハウスを建てることはできる」。九州のパッシブハウス分野における第一人者として知られる江藤さんは、パッシブハウス認定を取得するための明確な方法論を持っている。だが、認定を取るためのエネルギー効率を最大限にする要件にコストバランスまで考えると、住宅デザインや方位、使いたい建材の選択に制限が出る。例えば、建材の選択面では、コストダウンのため無垢材を複合フローリングに変更したり、ウッドチップ壁紙をビニールクロスに変えたりするような変更をすべきなのか。気密性の優れたパッシブハウスの室内環境に、化学物質を含む新材を多用することでシックハウスへの懸念もある。そして、断熱工法については、2年前より標準仕様としている木繊維断熱材シュタイクを全て石油由来の発泡系断熱ボードに切り替えてまでパッシブハウス認定取得へ進むべきか、住まい手と環境のことまで考慮に入れれば選択に及ばなかった。



Mariko Eto

江藤 真理子

空設計工房 代表 一級建築士
ドイツパッシブハウス研究所 認定パッシブハウス
デザイナー
URL: <https://www.sola-web.com/>

九州におけるパッシブハウスデザインのパイオニアで、「バウビオロギー」の思想に基づき、地球・環境・家族・健康・快適を考えた住まいづくりを行う。光や風、空気の質、そして温熱環境など目に見えない要素にもこだわり、住む人のライフスタイルを深く考慮した提案が特徴。

【受賞】 ECO-HOUSE AWARD 2019 最優秀賞
第5回日本エコハウス大賞2019 優秀賞
ベスト・オブ・ハウス2023 サービス賞 他多数





各部屋に設けられた窓は十分な明るさを取り込み、余計なものが映り込まず空の広がりや景色との一体感をもたらす



住宅の呼吸を伴う 付加断熱の良さを知る

住宅の省エネルギー基準でおおよそ6地域に分類される福岡県では、付加断熱まで行う必要がないのでは、と考えられる向きもある。しかし、それでも江藤さんがシュタイコを使う理由は、一言でいうと「体感の違い」である。年々厳しさを増す夏には、建築中でもシュタイコの施工後にたちまち過ごしやすい現場へと変わる。木繊維の塊が屋根からの急激な日射熱の侵入を減らし、比熱容量の大きさと熱拡散の低さが実感できるからだ。また、冬に関しても、シュタイコで構造全体を「面」で覆うことで熱橋が最小限に抑えられ、内部にある熱が外に逃げにくくなる。温度ムラのない均一な暖かさが室内に広がることを、江藤さんは既に過去の現場で体感済みであった。

その他にも、シュタイコの持つ防音性能が、都会の喧騒地や大きな道路沿いに建つ家でもその効果を発揮し、静かな室内環境に貢献しているという。そして、未来のためになるべく土に還る素材で建築したいという思いもある。「機能的な認定パッシブハウスである、ということはプラス要素だと考えています。居心地のいいパッシブハウスであって欲しいとなると、今回のMさんのような形になるんだと思います。」という結論が出た。



家全体の空気は計画換気され、気密も良いので換気ルートが確立していて、レンジフードなしでも魚を焼いたニオイも翌日に残ることはないそう

「性能数値＝住心地」ではない

Mさんに実際の住心地について尋ねると「建築中に諦めたり妥協したりする部分があったわけではありませんが、パッシブハウス基準を目指すという最高の妥協で自分を納得させられたこともあり、完成後の自宅については全く後悔するところがありません」と返ってきた。今では太陽光発電のモニターや温湿度計を頻繁に確認するのが習慣になり、エコハウスでなければ日々、相当のエネルギー消費をしていただろうと想像できるように。現実問題として、住宅ローンを払いながら将来のメンテナンス費用

などを心配するのは誰も同じ状況の中、日々のエネルギー消費が少ないことにも大きな安心感を得ていると話す。

Mさん夫妻は新居に移り住んでから、夜になるとよく2階のリビングの上部にある窓から月の満ち欠けを眺めるようになった。日中もリビングのそれぞれの窓から見える朝日や青空など、さまざまな表情を見せる空と静けさを感じて現在暮らしている。換気設備も万全なためにおいや埃がたまりにくいので、掃除も楽になり窓を開け放すことはほとんどない。きれいな空気質

の中で食卓に飾られた生花が長持ちするようになり、来客も家を居心地良く感じ滞在を楽しんで帰っていくそうだ。

「今でも時々、パッシブハウスのYouTubeやお宅拝見のような動画を見ることがあります。認定を取得できている方が、性能数値的なパフォーマンスは優れているのかもしれませんが、ただ、デザインや素材感が気に入っているのはもちろん、温熱環境と空気質の良さを体感できているので、この家は私たちにとって100点満点です。」



次世代を見据えた新たな展開へ

エコハウスでの実績を重ねてきた江藤さんは今、さらなる関心として土地の新規取得が難しい福岡市内でのマンションリノベーションに着目している。それには、これまで住宅の一次取得を希望する若い世代からの新築依頼があったものの、土地の価格が予算の大部分を占めているため基本性能の高い建物を計画することができず、断らざるをえなかったという背景もある。福岡市内には生活利便性の良い中古マンションが多く、その家族ごとに即した快適な住空間が提供できると考えている。戸建て住宅とはまた違う建築手法や考え方が必要となってくるが、「箱もの」だからこそ、結露の原因となる隙間を生じさせない吹き込み式の木繊維断熱材であるシュタイコゼルを使って、より完璧な温熱環境を実現することができるのではと捉えているそうだ。住宅に求められるものは時代と共に移りゆくが、江藤さんが住む人の居心地の良さについて追求し続ける姿勢は変わらない。

取材：岡田 真樹子 REPLYe/リプライエ

第27回 エコバウ 建築ツアー 2024

今年で27回目となったエコバウ建築ツアー。
ドイツ・オーストリア・スイスを巡り、戸建てから大規模建築まで
さまざまな最新のエコ建築を7日間にわたり視察し、
好評のうちに無事に終えることができました。
視察の詳細については、ご参加された
株式会社彩 代表の大坪宏記様に寄稿いただいたものを
ホームページとikeco次号にて掲載予定ですので
楽しみにお待ちください。
今号ではダイジェストをご紹介します。



第27回 エコバウ建築ツアー2024 スケジュール

日程	都市	行き先
10月27日	ミュンヘン	出国 到着後、ウェルカムパーティー
10月28日	ミュンヘン	STEICO本社 近郊のプロジェクト・現場視察
10月29日	フォアアールベルク州 ザンクトゲロルド村 近郊	カウフマン木造木工社 ビオホテルschwanenで 100%オーガニックグルメ 若手建築家 インアウアー・マツ設計事務所 材木屋の倉庫建築 ローコスト住宅 ベネディクト・カウフマン邸
10月30日	サーレッツ村 ヴィンタトウル市	ローテク木造建築 サーレッツ農業学校 K118サーキュラー建築 木造ハイブリッド集合住宅・H1
10月31日	ルツェルン バーゼル近郊	木造ZEB・サーキュラー建築 Haus des Holzes 大手木造会社・エルネ社
11月 1日	バーゼル近郊	HAGA社 事例訪問 木造5階建てZEB・エコオフィスHortus
11月 2日	ベルン	古民家改修事例・ヴァイヤークート 協同組合式集合住宅・ヴァルムベヒリ
11月 3日		帰国

10/27 ウェルカムパーティー。
まずはこれから視察を共に
するみなさんご挨拶。



10/29 世界的木造建築家ヘルマン・カウフマン氏の拠点である
フォアアールベルク州を訪れました。オーストリアで2番目に人口の小さい州ですが、地場の木材を活用した建築家や関連業者も多く、建築物を目的とした観光客も増えているとのこと。見学した設計事務所や木材倉庫には最新の木造技術がふんだんに使用されており、「木のある環境で育ったのだから木を使用するのが当然」という言葉が印象的でした。

Vorarlberg



11/ 1 天然スイス漆喰のメーカーである、HAGA社の事例訪問です。1300年代に建てられた歴史ある教会や、最も古いもので築800年の内装改修現場を視察。エンボディカーボンの観点から、壁を粘土地やレームブツで仕上げるのが近年人気とのことです。

Basel



10/28 

München



木繊維断熱材のSTEICO本社を訪問。高度な知識や技術を持つマイスターによる、ハイパワーなX-FLOCを用いたシュタイコゼルの吹き込み実演を見学後、近隣にあるシュタイコ施工予定の現場見学へ。新築現場の他に改修現場へも伺いましたが、現場は若い職人の方ばかりで非常に活気がありました。



10/30  Winterthur

築5年、木造ローテク建築のサーレツ農業学校を視察。スイスでは農家は国から非常に優遇されている職業の一つで、職業訓練制度を活用し多くの学生が働きながら通学しています。10年～20年でメンテナンスが必要な機械設備に頼らず、自然の力を活用し、手で天井や窓の換気、温度管理を行う『ローテク建築』を体験することができました。

10/31 

Luzern

木造5階建ZEB・サーキュラー建築と大手木造会社のエルネ社を訪れました。国産材の使い方や規模感、また機械による安定・効率化などの技術が現状の日本とは比較にならないほど圧巻で、どのように今後日本でも取り入れていけるかを大変考えさせられました。



11/2 

Bern

1731年の古民家を改修した「ヴァイヤークート」、チョコレート工場を改装・木造で増築された集合住宅「ヴァームベヒリ」を訪れました。建物の規模は異なりますが、どちらも協同組合を作って複数世帯が暮らし建物を管理しています。共用部がコミュニティの場となるほか、地熱などの自然エネルギーを効率的に住民が利用でき、人にも環境にもやさしい取り組みとして大変魅力的でした。



エコバウ建築ツアー 参加者アンケート

通常では見ることが難しい場所を視察できたことに加え、滝川さんの明確で分かりやすい通訳により、内容理解が大変深まりました。同業で同じ志を持つ方々との交流は大変有意義で、非常に学びが多い機会となりました。また、イケダコーポレーションのスタッフ様、添乗員様には細やかなご配慮をいただき、大変感謝しております。(戸松様/愛知県)

限りある日程の中で、ハードではありましたが、これだけ盛りだくさんの建築物や建築関係の方に出会うプログラムを組んでいただきありがとうございました。素晴らしいものに触れたり出会える時間はとても有意義でした。行先で見るもの、聞くもの、出会うもの、あと外国人との会話も、全て財産となりました! また、今回同行いただいたイケダコーポレーションのスタッフの方々、添乗員、通訳、全ての方が完璧なお仕事をされていたと思います。準備、企画に携わられているスタッフの方々、ありがとうございます。みなさんWunderbar! です。個人的にドイツ語学んでもう一度巡りたいと思っています。(田中様/千葉県)

住宅性能で後進国である日本に対し、先進国である海外の住宅事情の考え方を現地で感じたいと思い参加しました。視察に行った各建物を内部まで案内していただき、また撮影も許可していただいたことで後日事務所内でも共有でき、非常にためになりました。バス内での細かな説明も現地の諸事情が詳しく分かりよかったです。何度かツアーをレポートして参加されている方がおられると聞いていますので、自分もまた機会を作り参加したいと考えています。他の同業他社にもしっかりアナウンスして、このツアーの意義を含めアナウンスしていきたいと思っています。(河崎様/福岡県)



Pickup! 自然派家づくりの
こだわりサーチ!
Differentiation search for Natural House!



代表取締役
夏見 諭氏

蓄熱性を考えた暮らしづくり

暮らしを豊かにする上で、断熱は欠かせない存在となりつつあります。住まいの快適性は囲まれている天井・壁・床の温度に大きく依存しており、空気の温度が快適でも、それらが冷たいお家はとても寒く感じます。断熱材はその温度を室温に近づけるために存在し、さまざまな特徴のある断熱材から「そこに蓄熱性能があればもっと快適になる」という考えの中で出会ったのが木繊維断熱材でした。結局、天然の本物の素材が人に一番やさしかったのです。暮らしの断熱材、こだわってみてください。本当に幸せな毎日がやってきます。ぜひこだわりの一つに、木繊維断熱材シュタイコを検討ください!

夏見工務店/滋賀県

滋賀県を拠点に「住まいの快適性」を追求し、断熱性能はもちろん地元で作れるエネルギー源の確保、地域産材などの有効利用にも注力する工務店。滋賀を愛し豊かな自然とともに暮らしを彩る、その土地ごとの住まい方や取り巻く環境を整えるため、住まい方のサポートができる範囲の地域と人で支え合う「三方よし」の精神がポイント!



SNSでもこだわり家づくりの
設計ポイントを公開中!

D 株式会社夏見工務店
A 〒520-3031
T 滋賀県栗東市縄1丁目19番45号
A <https://kknatsumi.com/>



ご報告

ヘルマン・カウフマン来日セミナー

木造建築の未来
木造技術とモダン建築の融合
～地域経済を拓く「伝統と革新」～



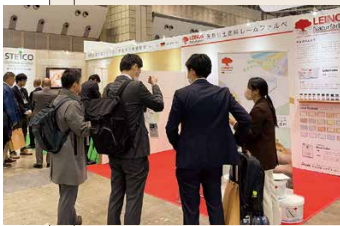
2024年9月24日(火) @東京

中大規模木造建築の世界的パイオニア、ヘルマン・カウフマン氏、高知県を拠点に活動し地域経済復活の成功事例として注目を集める建築家、艸建築工房の横島康氏をお迎えしてのセミナーを開催しました。日本とオーストリアそれぞれの「地域」と「木造」の関わりについてお話しいただき、自然素材の持つ可能性を、住まいをこえて様々な場所で活かすことへのヒントを皆さまと共有できる機会となりました。

ジャパンホーム&ビルディングショー2024

2024年11月20日(水)～22日(金) @東京ビッグサイト

46回目となるジャパンホームショーに今年も出展いたしました。「木造化・木質化推進ゾーン」にて、脱炭素社会に向けたCO2削減のための木材利用として木繊維断熱材シュタイコを、そして木造のメリットを損なわず快適な室内環境を整える天然粘土塗料レームファルベの展示を行い、様々な業種の方からご興味いただく盛況ぶりとなりました。



お知らせ

シュタイコ実験棟プロジェクト

株式会社藤島建設と工学院大学建築学部ご協力のもと、木繊維断熱材シュタイコの実証実験プロジェクトが始動いたしました。実際の住宅を模した2棟の実験棟にてさまざまな測定器を用い、1年間にわたって温熱・湿度・遮音などのデータを分析、一般的な断熱材とシュタイコの違いをレポートして参ります。ホームページにて随時更新予定ですので楽しみにお待ちください。



シュタイコゼル吹き込み施工見学会

吹き込み断熱材シュタイコゼルの施工見学会を全国各地にて行なっております。断熱性能はもちろん、吸音や調湿効果もある木繊維により、施工前後での室内空間の変化を体感できる機会となっております。ご興味のある方はイケダコーポレーションまでお問い合わせください。

随時
開催中!!



ひとと環境にやさしい住まいづくり
株式会社イケダコーポレーション

ご注文・カタログのダウンロードはWEBから



SNSで施工事例・イベント情報など
更新しています



ご登録
願います

0120-544-453

仙台・東京・名古屋・大阪・福岡

URL www.iskcorp.com